

TAC簿記検定講座
無料公開セミナー

会社の通信簿

～簿記との出会いと活かし方～

目 次

Stage 1 簿記とは

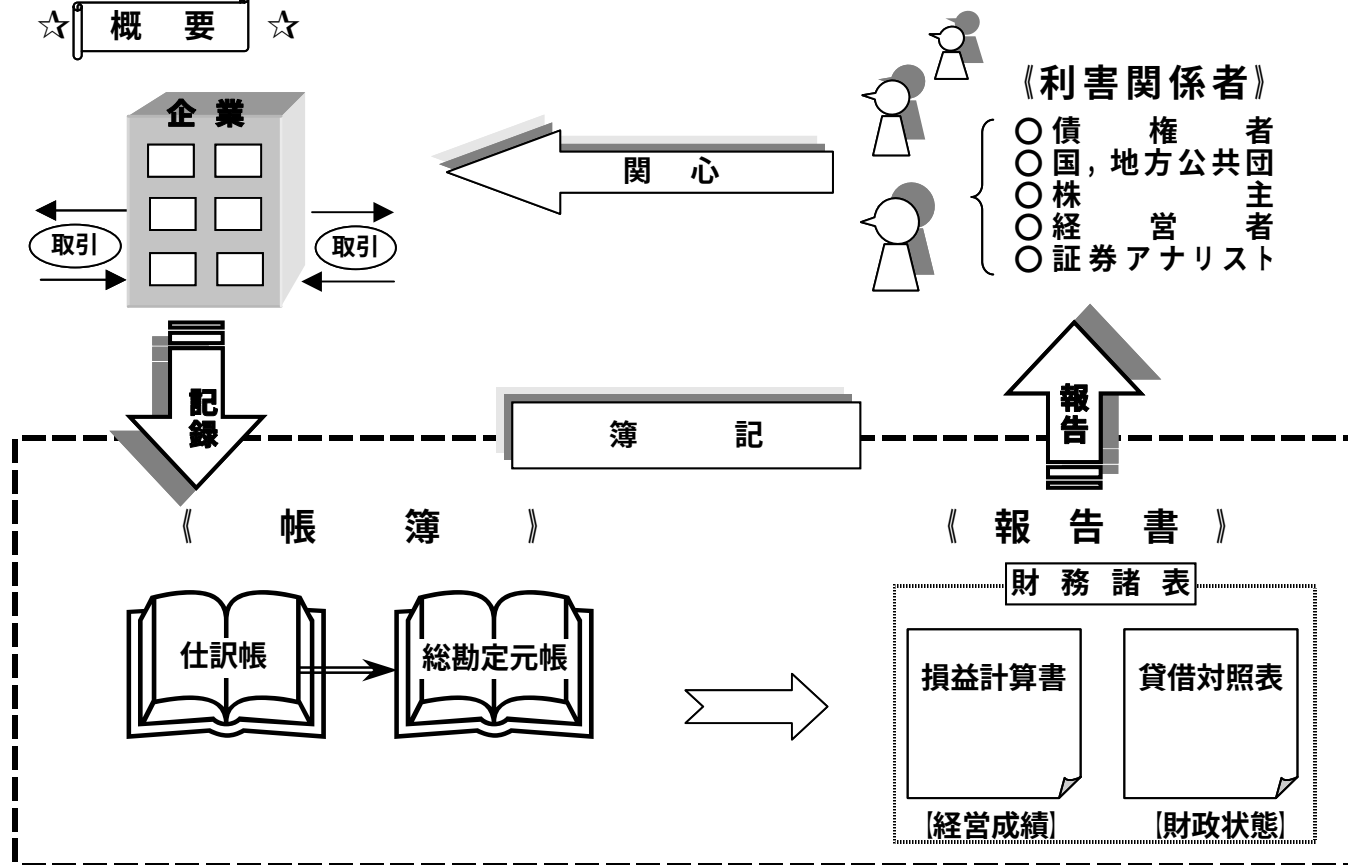
I	簿記一巡の手続き	1
II	財務諸表	2
1.	貸借対照表	2
2.	損益計算書	3
3.	ま と め	4
III	記帳のルール	5
	仕訳の基本	6
	(参考) 色々な取引の仕訳の仕方	8
	転記の仕方	10
IV	試算表の作成	13
V	財務諸表の作成	13

Stage 2 簿記の活かし方

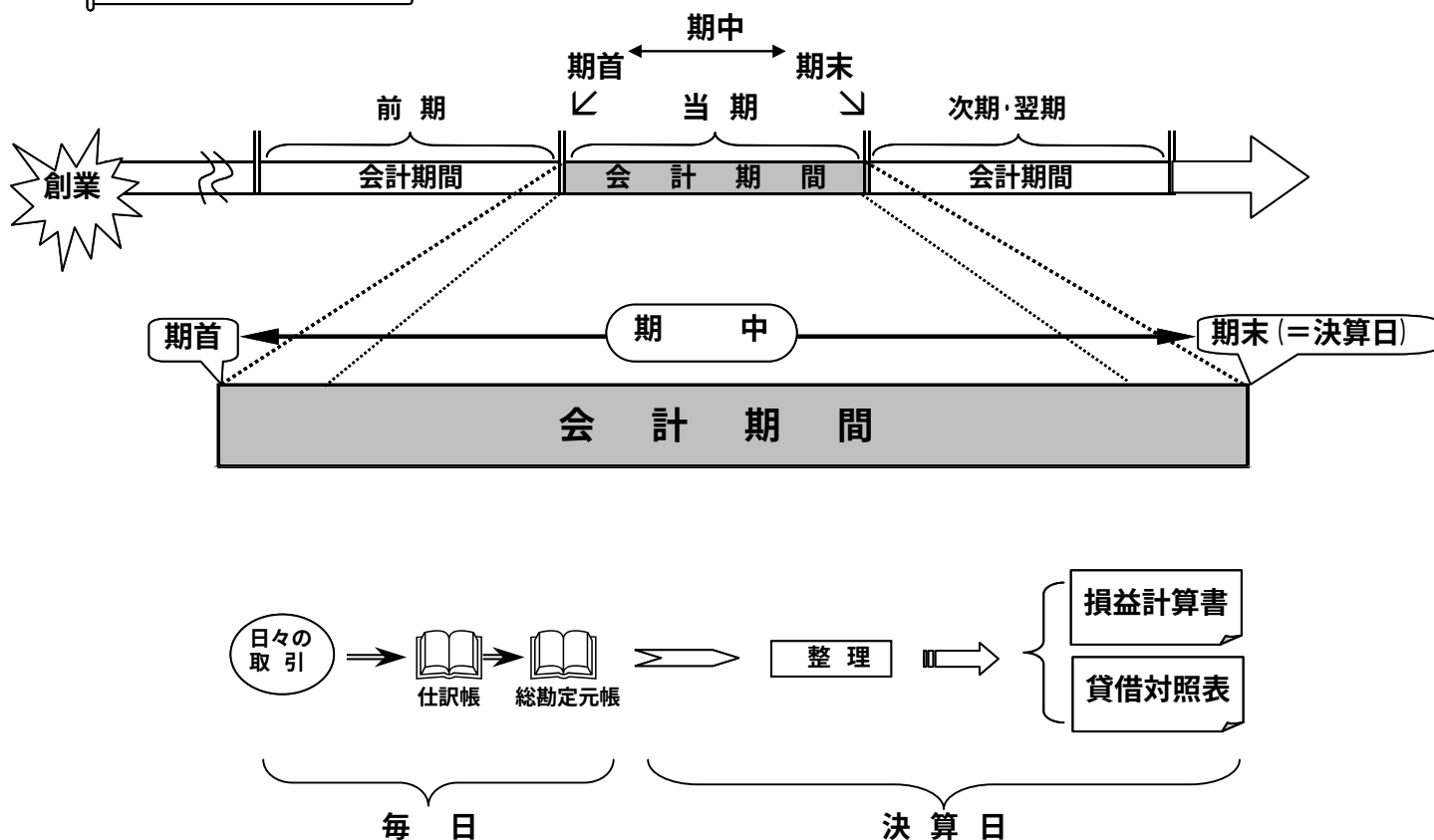
就職情報誌を読む	16
簿記以外の試験へ知識を応用する	
初級シスアド	17
中小企業診断士	18
その他	19

I 簿記一巡の手続き

☆ 概要 ☆



☆ 時間的な流れ ☆



II

財務諸表 (F/S)

1. 貸借対照表 (B/S) …… 一定時点における財政状態 の報告書



貸借対照表	
◎×商店 平成○年12月31日 (単位:円)	
資 産	負 債
	資 本

金額は必ず一致 : 資産 = 負債 + 資本 (貸借対照表等式)



B/S 1月1日	
資 産	負 債
	資 本
150	50
	100

B/S 12月31日	
資 産	負 債
	資 本
350	50
	300

元手が1年間の経営活動で増加!

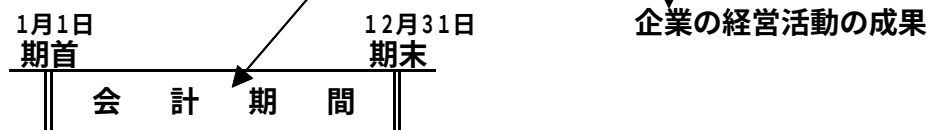
1年後

期末資本(300円)の内訳
= 期首資本(100円)
+ 当期純利益(200円)

《 財産法による純損益の計算 》

$$\begin{array}{rcl} \text{期末資本} & - & \text{期首資本} \\ (300\text{円}) & & (100\text{円}) \end{array} = \begin{cases} + : \text{当期純利益} & (200\text{円}) \\ - : \text{当期純損失} \end{cases}$$

2. 損益計算書 (P/L) ……一定期間における経営成績の報告書



損益計算書	
平成〇年1月1日から 平成〇年12月31日まで (単位:円)	
◎×商店	
費用	収益
(当期純利益)	

金額は必ず一致 : 費用 + 当期純利益 = 収益 (損益計算書等式)

∴前ページの様子を損益計算書であらわすと…

損益計算書	
1月1日から 12月31日まで	
費用	収益
100	300
(当期純利益) 200	

《 損益法による純損益の計算 》

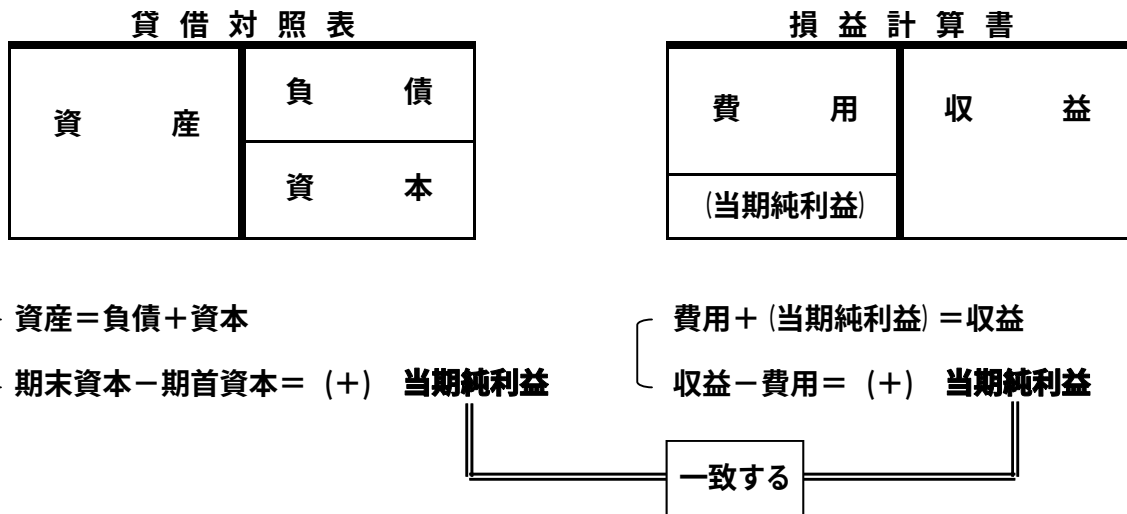
$$\begin{array}{rcl}
 \text{収益} & - & \text{費用} \\
 (300\text{円}) & & (100\text{円})
 \end{array}
 = \left\{ \begin{array}{l} + : \text{当期純利益 (200円)} \\ \Delta : \text{当期純損失} \end{array} \right.$$

さらに……

資産・負債・資本および収益・費用は、具体的な名前 (勘定科目という) を使って記録する。

3. まとめ

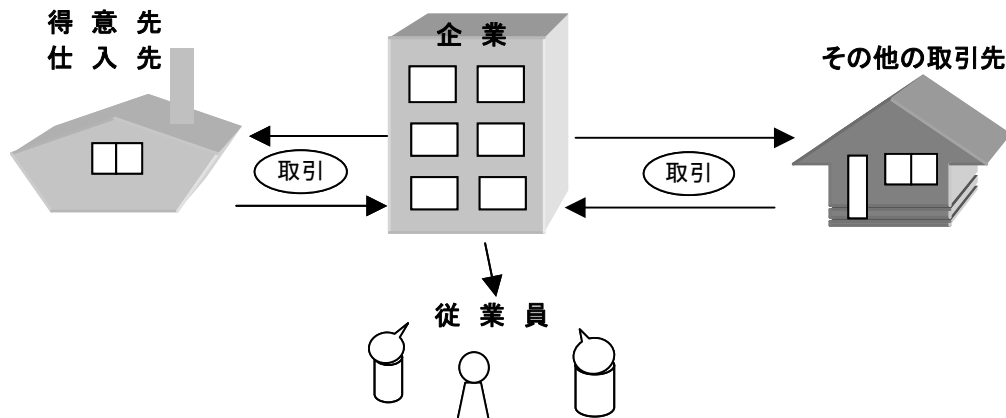
(1) 財務諸表



(2) 簿記の5要素と勘定科目

	簿記の5要素	勘 定 科 目
貸借対照表	資 産	現金、預金、売掛金、貸付金、土地、建物など
	負 債	買掛金、借入金など
	資 本	資本金など
損益計算書	収 益	売上、受取家賃、受取地代など
	費 用	仕入、給料、支払家賃、支払地代、保険料、通信費、支払利息など

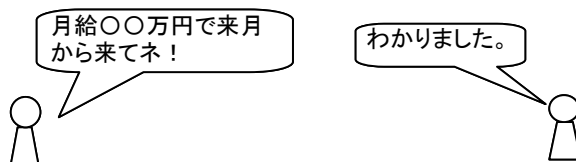
Ⅲ 記 帳 の ル ー ル



☆ 簿記上の(=帳簿に記録する)取引 ☆

…資産・負債・資本が増減する出来事。

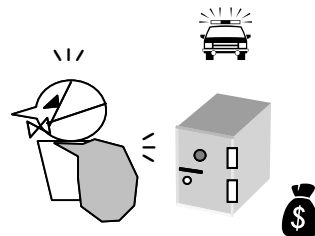
《口約束》…簿記上の取引にならない。(=記帳しない。)



《火災・盗難》…簿記上の取引になる。(=記帳する)

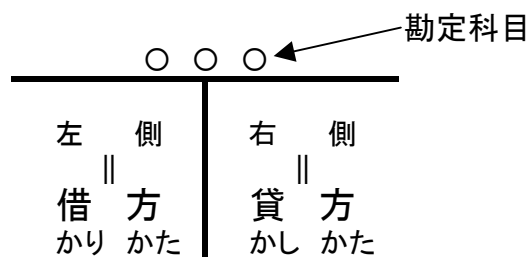
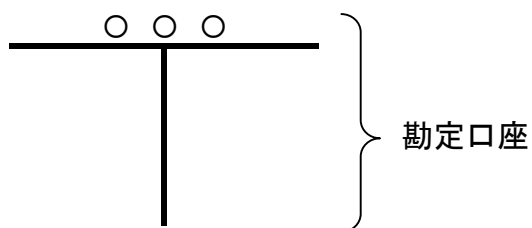


〔建物〕という【資産】の減少



〔現金〕という【資産】の減少

☆ 勘 定…取引を記録する帳簿上の道具 ☆



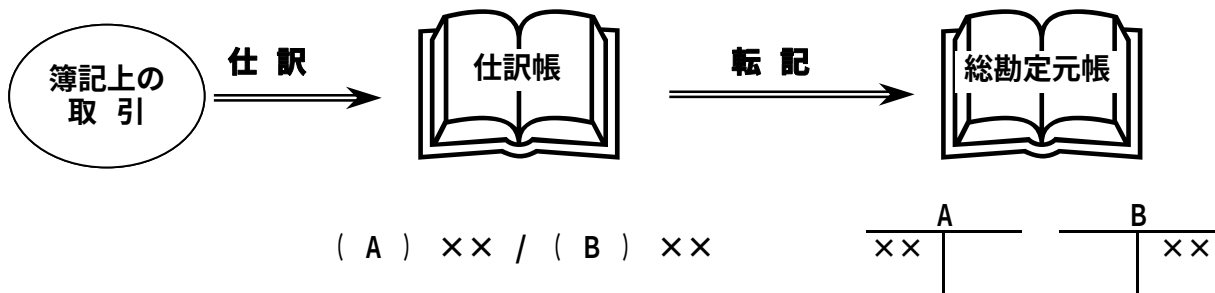
☆ 増減記入のルール ☆

資 産 (の勘定科目)		貸 借 対 照 表		負 債 (の勘定科目)	
増 加 (+)	減 少 (-)	資 産	負 債	減 少 (-)	増 加 (+)
			資 本	資 本 (の勘定科目)	
				減 少 (-)	増 加 (+)

費 用 (の勘定科目)		損 益 計 算 書		収 益 (の勘定科目)	
発 生 (+)	消 滅 (-)	費 用	収 益	消 滅 (-)	発 生 (+)
		(当期純利益)			

☆ 帳簿の記録 (先ずは仕訳から) ☆

仕訳 … 企業の取引を借方と貸方に分類し、勘定科目と金額を記入する作業



4/1 ● 取 引

● 取引の分解
5 要素
勘定科目

現金 2,000円を 元入れして開業 した。

↓	↓
[資 産] の (+)	[資 本] の (+)
現 金	資 本 金
+	+
2,000	2,000

● 仕 訳

(現 金) 2,000 / (資 本 金) 2,000

5/7 ● 取引

銀行から現金 500円を借り入れた。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

〔資産〕の(+)

現金	
+	
500	

〔負債〕の(+)

借入金	
+	
500	

● 仕訳

(現金)	500	/	(借入金)	500
------	-----	---	-------	-----

6/13 ● 取引

商品700円を仕入れ、代金は現金で支払った。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

〔費用〕の(+)

仕入	
+	
700	

〔資産〕の(-)

現金	
-	
700	

● 仕訳

(仕入)	700	/	(現金)	700
------	-----	---	------	-----

7/4 ● 取引

商品1,500円を売り上げ、代金は現金で受け取った。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

〔資産〕の(+)

現金	
+	
1,500	

〔収益〕の(+)

売上	
+	
1,500	

● 仕訳

(現金)	1,500	/	(売上)	1,500
------	-------	---	------	-------

[参考：いろいろな取引例]

① ● 取 引

● 取引の分解
5要素

勘定科目

備品 300円を購入し現金で支払った。

[資産]の(+)

[資産]の(-)

備	品
+	
300	

現	金
	-
	300

● 仕 訳

(備品)	300	/	(現金)	300
------	-----	---	------	-----

② ● 取 引

● 取引の分解
5要素

勘定科目

商品700円を掛けで仕入れた。

[費用]の(+)

[負債]の(+)

仕	入
+	
700	

買	掛	金
		+
		700

● 仕 訳

(仕入)	300	/	(買掛金)	300
------	-----	---	-------	-----

③ ● 取 引

● 取引の分解
5要素

勘定科目

商品1,500円を掛けで売り上げた。

[資産]の(+)

[収益]の(+)

売	掛	金
+		
1,500		

売	上
	+
	1,500

● 仕 訳

(売掛金)	1,500	/	(売上)	1,500
-------	-------	---	------	-------

④ ● 取 引

● 取引の分解
5要素

勘定科目

買掛金 500円を約束手形を振り出して支払った。

[負債]の(-)

[負債]の(+)

買	掛	金
+		
500		

支	払	手	形
			+
			500

● 仕 訳

(買掛金)	500	/	(支払手形)	500
-------	-----	---	--------	-----

⑧

● 取引

売掛金 1,000円を**約束手形**で受け取った。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

[資産]の(+)

[資産]の(-)

受取手形	
+	
1,000	

売掛金	
	-
	1,000

● 仕訳

(受取手形)	1,000	/	(売掛金)	1,000
--------	-------	---	-------	-------

⑤

● 取引

店舗の家賃 600円を**現金**で支払った。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

[費用]の(+)

[資産]の(-)

支払家賃	
+	
600	

現金	
	-
	600

● 仕訳

(支払家賃)	600	/	(現金)	600
--------	-----	---	------	-----

⑥

● 取引

現金 1,000円を銀行より**借り入れた**。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

[資産]の(+)

[負債]の(+)

現金	
+	
1,000	

借入金	
	+
	1,000

● 仕訳

(現金)	1,000	/	(借入金)	1,000
------	-------	---	-------	-------

⑦

● 取引

営業用車両 1,000円を購入し、代金は**後日支払う**こととした。

● 取引の分解
5要素

勘定科目

[資産]の(+)

[負債]の(+)

車両	
+	
1,000	

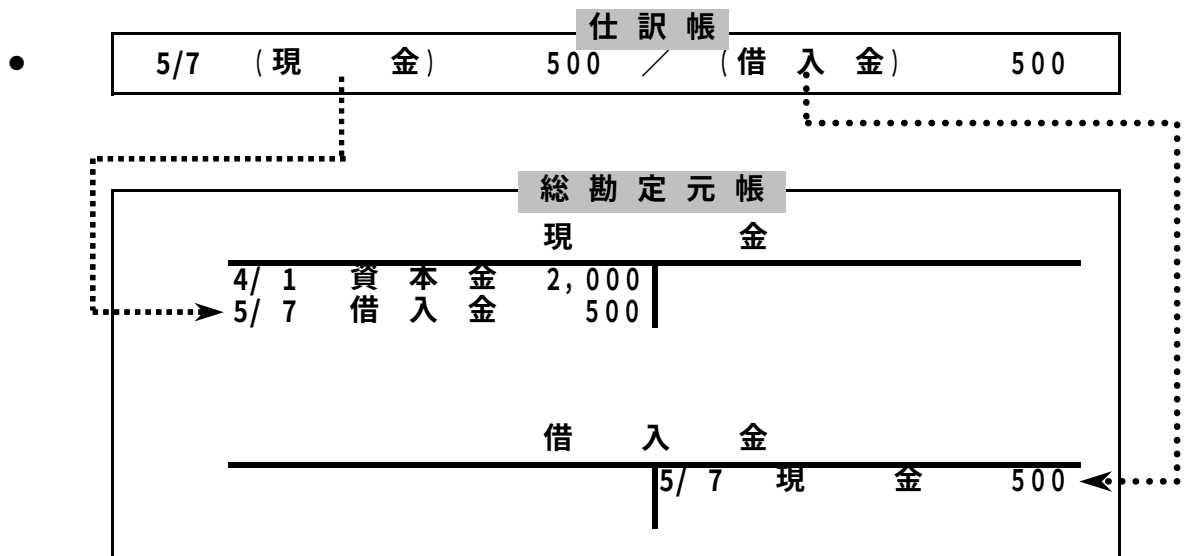
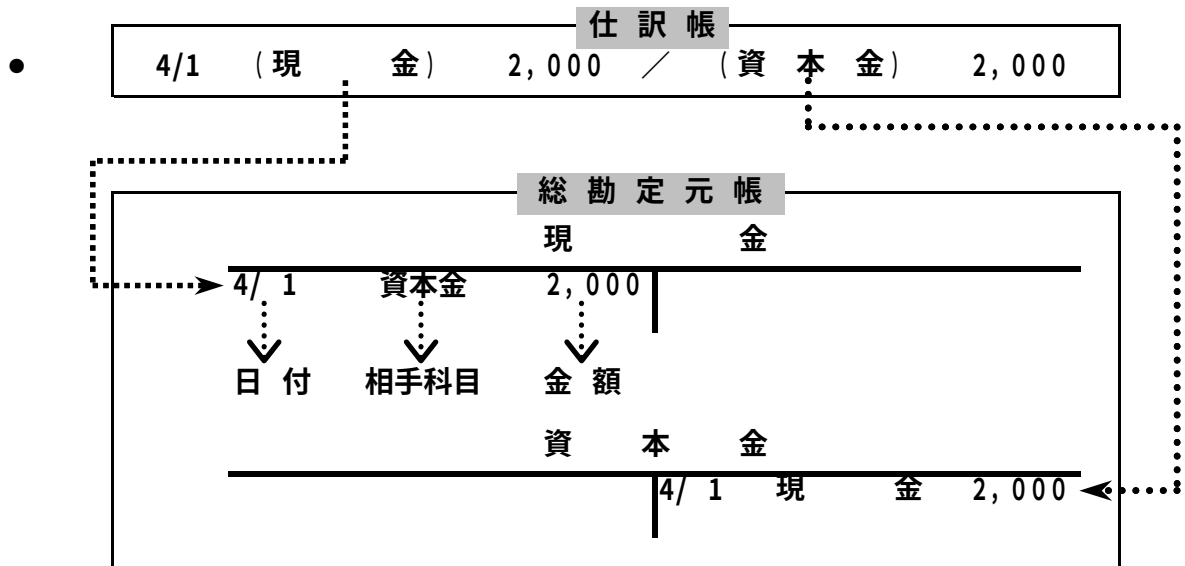
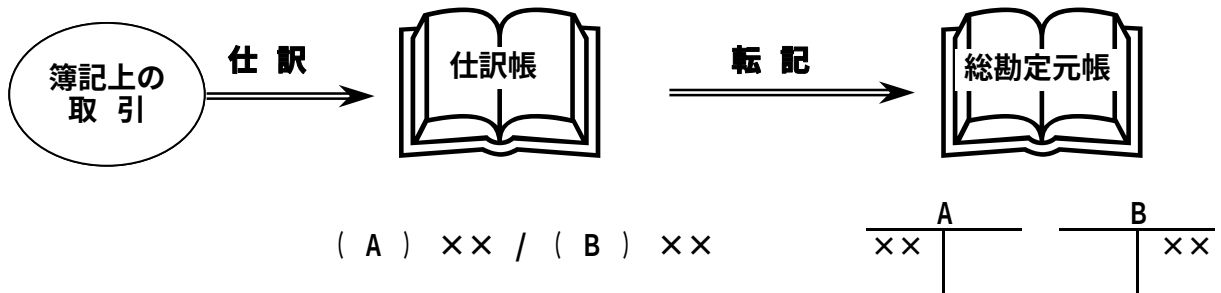
未払金	
	+
	1,000

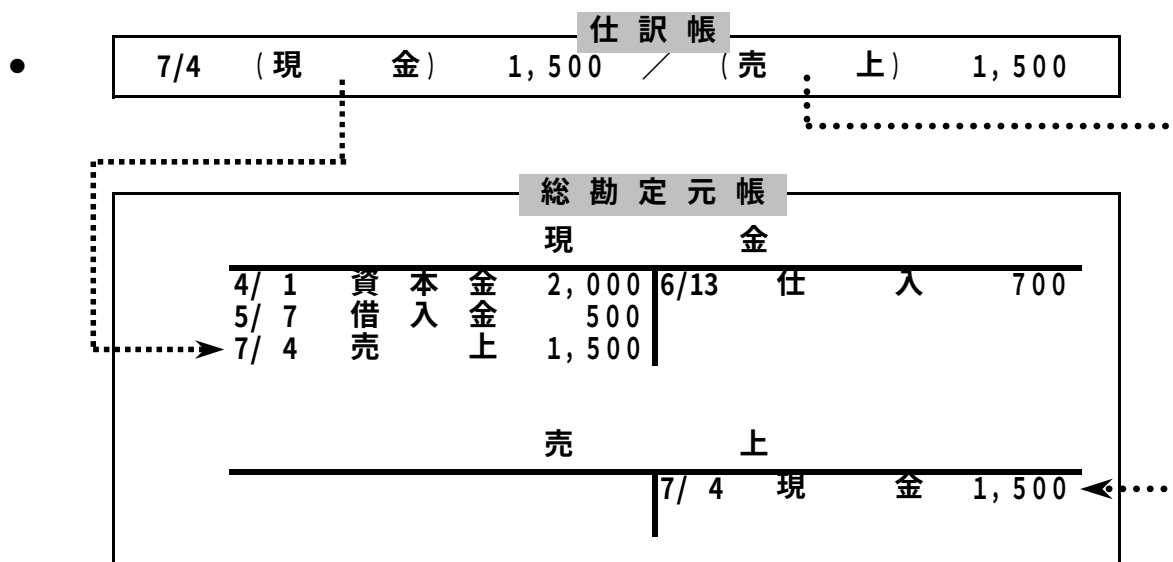
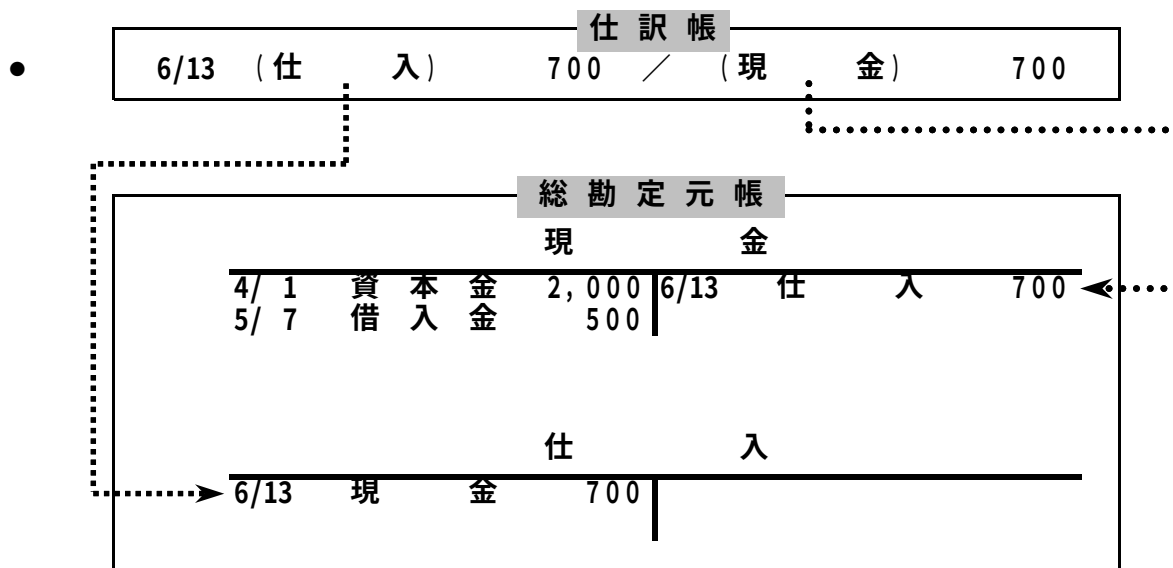
● 仕訳

(車両)	1,000	/	(未払金)	1,000
------	-------	---	-------	-------

☆ 帳簿の記録 (次に転記) ☆

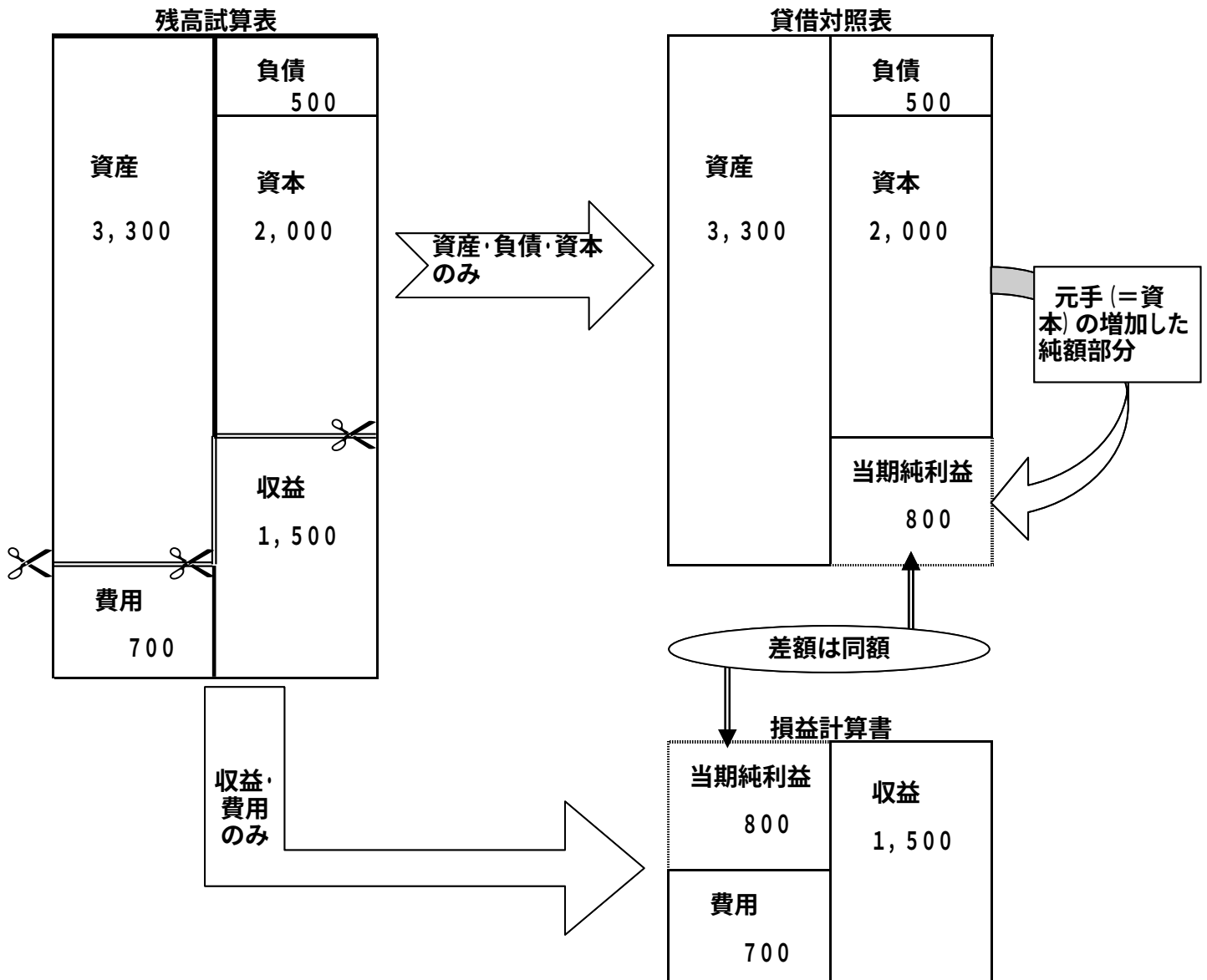
転記・・・勘定科目ごとの増減を明らかにするため仕訳を各勘定に書き移す作業。





《総勘定元帳》

借方合計 4,000	{	現		金			}	貸方合計 700
		4/ 1	資本金	2,000	6/13	仕入		
		5/ 7	借入金	500				
		7/ 4	売上	1,500				
				借入金				
					5/ 7	現金	500	貸方合計 500
				資本金				
					4/ 1	現金	2,000	貸方合計 2,000
				売上				
					7/ 4	現金	1,500	貸方合計 1,500
				仕入				
借方合計 700	{	6/13	現金	700				



【 Stage 2 】 簿記の知識の活かし方
 〈 1 〉 日常目にする会社の資料を読む

※※※ 例 (商品売買業) ※※※
 ○就職情報誌等の会社データ欄○

	売 上	営業利益	経常利益	利 益
01. 03	100, 000	10, 000	9, 500	5, 000
02. 03	150, 000	15, 000	14, 500	9, 000
03. 03	200, 000	20, 000	19, 500	18, 000

損 益 計 算 書			
(株) 凸凹			
勘定式			
00. 03より01. 03まで			
費 用	金 額	収 益	金 額
売り渡した商品の仕入原価…………… 売 上 原 価	70, 000	売 上 高	100, 000
給 料	11, 000	有価証券売却益	100
広 告 宣 伝 費	5, 400	固定資産売却益	500
店舗等の借家代…………… 支 払 家 賃	3, 600		
借入金の利息…………… 支 払 利 息	600		
建物等の火災による損失…………… 火 災 損 失	5, 000		
1年間の利益…………… (当 期 純 利 益)	5, 000		
	100, 600		100, 600

損 益 計 算 書			
(株) 凸凹			
報告式			
00. 04より01. 03まで			
	I 売 上 高		100, 000
	II 売 上 原 価		70, 000
商品の売買益	売 上 総 利 益		30, 000
	III 販売費及び一般管理費		
商品の売買 (本業) に必要な費用	給 料	11, 000	
	広 告 宣 伝 費	5, 400	
本業での利益	支 払 家 賃	3, 600	20, 000
	営 業 利 益		10, 000
	IV 営業外収益		
本業以外の収益	有価証券売却益		100
	V 営業外費用		
本業以外の費用	支 払 利 息	600	
通常活動での利益	経 常 利 益		9, 500
	VI 特別利益		
臨時・巨額な収益等	固定資産売却益		500
	VII 特別損失		
臨時・巨額な損失等	火 災 損 失	5, 000	
最終的な利益	当 期 純 利 益		5, 000

《 2 》他の資格取得に役立てる・・・

IT立国を目指す日本

・・・IT関連の国家資格の中で、最もポピュラーな初級シスアドには、こんな問題が出題されました。

【平成16年度 秋期】

問64 営業利益の計算式はどれか。



- ア 売上高 － 売上原価
 イ 売上高 － (売上原価 ＋ 販売費及び一般管理費)
 ウ 売上高 － (売上原価 ＋ 販売費及び一般管理費) ＋ 営業外収益 － 営業外費用
 エ 売上高 － (売上原価 ＋ 販売費及び一般管理費) ＋ 営業外損益 － 特別損益

答え
イ

問66 当期末における残高試算表(一部分)から当期の建物の減価償却費を計算すると、何千円になるか。
 ここで、償却法方は定額法、耐用年数は20年とし、残存価額は取得価の10%とする。

残 高 試 算 表		単位	千円
建物	10,000	建物減価償却累計額	3,600

- ア 270
 イ 320
 ウ 450
 エ 500

答え
ウ

問67 ある商品の前月繰越と受払いが表のとおりであるとき、先入先出法によって算出した10月度の売上原価は何円か。

10月 1日	前月繰越	100個	繰越単価	200円／個
10月 5日	仕入	50個	仕入単価	215円／個
10月15日	売上	70個		
10月20日	仕入	100個	仕入単価	223円／個
10月25日	売上	60個		
10月31日	翌月繰越	120個		

- ア 26,450
 イ 27,250
 ウ 27,586
 エ 28,130

答え
ア

《 2 》他の資格取得に役立てる・・・パート2

次に、今注目されている、経営コンサルタントとしては唯一の国家資格
・・・中小企業診断士試験にはこんな問題が出題されました。



【平成16年度 財務・会計】

第1問

取引の発生から財務諸表の作成に至るまでの簿記一巡の手続きとして、最も適切なものはどれか。

- ア 取引の発生→仕訳→元帳転記→決算整理手続き→棚卸帳の作成→試算表の作成→財務諸表の作成
イ 取引の発生→仕訳→元帳転記→試算表の作成→決算整理手続き→棚卸帳の作成→財務諸表の作成
ウ 取引の発生→仕訳→元帳転記→試算表の作成→棚卸帳の作成→決算整理手続き→財務諸表の作成
エ 取引の発生→仕訳→元帳転記→棚卸帳の作成→決算整理手続き→試算表の作成→財務諸表の作成
オ 取引の発生→仕訳→元帳転記→棚卸帳の作成→試算表の作成→決算整理手続き→財務諸表の作成

答え
ウ

第2問

次の精算表では、損益計算書欄と貸借対照表欄とで、当期純利益の額が異なっている。これに関連し、
下記の設問に答えよ。

精 算 表

(単位:万円)

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現金	580						580	
売掛金	2,900						2,900	
繰越商品	300		① 320	① 300			320	
前受金	80						80	
前払金		2,240						2,240
前渡金		100						100
備前金	300						300	
貸倒引当金		40		② 30				70
減価償却累計額		120		③ 20				140
資本金		1,500						1,500
売上		5,000				5,000		
仕入	3,920		① 300	① 320	3,900			
給料	600				600			
支払家賃	300			④ 50	250			
仕入割引	20				20			
	9,000	9,000						
貸倒引当金繰入			② 30		30			
減価償却費			③ 20		20			
前払家賃			④ 50					50
当期純利益					180			80
			720	720	5,000	5,000	4,180	4,180

(設問1) 当期純利益の額が合わない原因は何か、次に掲げる原因のうち、最も適切なものの組み合わせを
下記の解答群から選べ。

- a 貸借対照表勘定と損益計算書勘定を混同している。
b 資産勘定と負債勘定を混同している。
c 資産勘定と資本勘定を混同している。
d 収益勘定と費用勘定を混同している。
e 金額を移記する際に、借方と貸方を混同している。

《解答群》

- ア a と b と c イ a と b と d ウ a と c と e
エ b と d と e オ c と d と e

(設問2) 精算表を正しく作り替えたとき、当期純利益の額として最も適切なものはどれか。

- ア 60万円 イ 130万円 ウ 180万円 エ 220万円

答え
(設問1) エ
(設問2) エ

その他 参考 (会社への就職を考える場合)

	日商簿記検定(3,)2級の 業務への 活かし方	日商簿記検定3, 2級取得後の参考となる進路	
		他の資格、周辺知識	業務への活用
事務職	総務・経理の仕事に直結 (ただし、仕事の種類は 膨大なもの。就職後も 右のような様々な知識 を身に付けて武装したい もの)	日商簿記検定1級 税理士、公認会計士等	日常業務以外の経営に関する業務 上記とともに、決算に関する業務の 全般 (又は独立開業)
		法人税法、消費税法、 所得税法等の税法の知識	自社の決算、従業員の年末調整等
		社会保険労務士	従業員の入社や退社の手続き等
		システムアドミニストレータ	コンピュータシステムで業務の 効率化を図る等
営業職	取引先の管理 信用調査、与信管理 自社の販売予算の管理 自社の営業計画への参画	中小企業診断士	与信管理等を、より高度な知識で 行える 自社、取引先の業務改善に関する アドバイス等
技術職	研究開発に関する予算管理 営業計画への参画や 予算折衝等	日商簿記検定1級	研究に関する予算管理、予算計画、 予算と実績の比較分析等の より高度なコスト管理

※ 各資格については、「資格の魅力」をご参照ください。

日商3級 主な勘定科目一覧表

貸借対照表項目				
資産科目(企業が所有するもの、権利、債権)		負債科目(将来返済しなければならない義務、債務)		
現金	通貨(硬貨と紙幣)、通貨代用証券	支払手形	手形代金を後日支払うべき義務	
小口現金	各部署の小額の支払のために、用度係に前渡ししておく資金	買掛金	商品や代金(後払い(掛))で仕入れた場合の商品代金を後日支払うべき義務	
銀行預金※	銀行への預入金額(当座預金、普通預金、定期預金など)	未払金	商品以外を代金(後払い)で購入した場合の購入代金を後日支払うべき義務	
受取手形	手形金額を後日受け取る権利	借入金	金銭を銀行などから借り入れた場合に生ずる後日返済すべき義務	
売掛金	商品や代金(後払い(掛))で販売した場合の商品代金を後日受け取る権利	手形借入金	金銭を借り入れ、借用証書の代わりに手形を振り出した場合の債務	
立替金	取引先負担の運賃を代わりに支払ったり、従業員の給料を前貸した時生ずる権利	預り金	源泉税、社会保険料等の一時預かり額	
他店商品券	他店発行の商品券	前受金	商品代金の前受額	
仮払金	金額、内容が確定しない支払額	仮受金	金額、内容が確定しない受取額	
売買目的有価証券	売買目的で購入した株券、公社債券	商品券	当店発行の商品券	
〔商品〕	販売目的の物品(商品)の原価、分記法で使用	当座借越	当座預金残高を越える小切手の振出額	
繰越商品	期末(又は期首)における売れ残り商品の原価、三分法で使用	未払費用※	当期費用のうちの未払額	
消耗品	事務用品、包装用材料の資産勘定	前受収益※	受け取った収益のうちの次期分(前受額)	
貸付金	金銭を取引先などに貸し付けた場合に生ずる権利			
手形貸付金	金銭を取引先などに貸し付けて借用証書の代わりに手形を受け取った場合の勘定			
未収金	商品以外を代金(後払い)で売却した場合の売却代金を後日受け取る権利			
前払金	商品代金の前渡額			
前払費用※	支払った費用のうちの次期分(前払額)			
未収収益※	当期の収益のうちの未収額			
建物	営業用の事務所・店舗・倉庫など			
備品	営業用の机・椅子・陳列棚・応接セット・各種事務用機器など	【現金過不足】	現金実際有高と帳簿残高との不一致差額を一時的に処理する仮勘定	
車両運搬具	営業用のトラック・乗用車・オートバイなど	資本科目(事業主の元手とそのもうけ)		
土地	事務所・倉庫などの営業用資産の敷地	資本金	事業主の元手とその増加額	
貸倒引当金★	将来生ずる債権の回収不能に対する準備額	引出金★	事業主の引出額(所得税・事業主個人の保険料の支払)	
減価償却累計額※★	営業用固定資産の使用による減価額の累計額、間接法で使用			
損益計算書項目				
費用科目(収益を獲得するために使われたもの及び労働力)		収益科目(もの及び労働力を提供して得た対価)		
仕入	商品の仕入高(原価)、三分法で使用	売上	商品の販売高(売価)、三分法で使用	
給料	従業員に対する給料の支払額	〔商品売利益〕	商品を販売したことによるもうけ、分記法で使用	
広告費	新聞広告・チラシ・看板などの支払額	受取利息	貸付金・公社債などに対する利息の受取額	
消耗品費	事務用品、包装用材料の費用勘定	(有価証券利息)	(公社債の利息の受取額)	
旅費交通費	出張・日常の電車代・宿泊代などの支払額	受取配当金	株式に対する配当金の受取額	
光熱費	電気代・ガス代などの支払額	(受取利息配当金)	(受取利息a/cと受取配当金a/cの両方を含むa/c)	
租税公課	事業税・固定資産税・印紙税などの支払額	受取手数料	手数料の受取額	
発送費	得意先に対する商品の発送にかかる運賃などの支払額	受取地代	土地の貸付による地代の受取額	
支払運賃	運送料	受取家賃	建物の貸付による家賃の受取額	
通信費	電話代・切手代・はがき代などの支払額	有価証券売却益	有価証券の売却によるもうけ	
貸倒損失	売掛金などの貸倒による損失額	有価証券評価益	有価証券の評価替えによる収益	
貸倒引当金繰入	貸倒引当金の不足分についての繰入額	固定資産売却益※	固定資産の売却によるもうけ	
減価償却費	営業用固定資産の使用などによる価値減少額	雑収入(○r雑益)	営業とは無関係に生じた少額な収益	
支払保険料	保険料支払額	貸倒引当金戻入	貸倒引当金の過大分についての戻入額	
支払地代	土地の賃借料支払額	償却債権取立益	前期以前に貸倒処理した債権の当期回収額	
支払家賃	建物の賃借料支払額			
雑費	上記以外の費用の支払額			
支払利息	借入金の利息支払額			
手形売却損	受け取った手形を満期日前に換金する際に支払う金利相当額			
有価証券売却損	有価証券の売却による損失			
有価証券評価損	有価証券の評価替えによる損失			
固定資産売却損※	固定資産の売却による損失			
雑損(○r雑損失)	営業とは無関係に生じた少額な費用			
当期純利益(一会計期間で獲得することができたもうけ)			(注) ※を付した勘定科目は、当該具体的な名前を付す場合が多い。 ★を付した勘定科目は、マイナス勘定である。	